

宗教性の人類学

近代の果てに、
人は何を願うのか

ながたに ちよこ べつしよ ゆうすけ かわぐち ゆきひろ ふじもと とうご
 長谷千代子・別所裕介・川口幸大・藤本透子編

▼A5判・上製カバー！420頁・定価四、四〇〇円

2021年4月刊行



日本の戦没者慰霊や道徳教育、沖縄の聖地巡礼、イングランドの女神運動、カザフスタンの聖者崇敬、チベットの生態文化、中国の儒教……
 これらは果たして「宗教」か、あるいは文化的なムーブメントか？
 今日の世界に滲出する宗教性へ。

【目次】

はじめに

序論 いま、宗教をめぐるなにが問題なのか (長谷千代子)

第一部 宗教研究の歴史と現在

第一章 宗教研究と日本の宗教人類学 (田中雅二)

第二章 宗教人類学を歴史化する (長谷千代子)

第三章 霊的存在をめぐって (長谷千代子)

第四章 宗教的なものが滲出すると感じるのはなぜなのか (長谷千代子)

第五章 霊長類学・道徳心理学・進化生物学による宗教論 (矢野秀武)

第二部 革命思想の経験

第四章 儒教と祖先祭祀に見る現代中国の「宗教性」 (川口幸大)

第五章 「生態文化」をめぐる政治と宗教 (別所裕介)

第六章 現代チベットの環境主義運動から (別所裕介)

第七章 カザフスタンにおける近代化の経験とイスラーム (藤本透子)

第八章 コミュニティへの希望と宗教団体 (神原ゆうこ)

第九章 スロヴァキアにおける社会貢献活動の展開 (河西瑛里子)

イギリス、グラストンベリーの女神運動 (河西瑛里子)

宗教フェミニズム、ペイガニズムの狭間で (河西瑛里子)

第三部 日本の経験

第九章 戦後慰霊を再考する (西村 明)

第一〇章 政教分離フィルターを過ぎた後の残留宗教性 (西村 明)

日本の人権受容における宗教文化的土台 (施 光恒)

ヴァナキュラー・スピリチュアリティ (門田岳久)

沖縄における聖地経験と「地域」のあいだ (門田岳久)

台湾における宗教的実践と政治 (藤野陽平)

多義的な日本像を介して (藤野陽平)

終章 宗教性の領域で考える (川口幸大、別所裕介、藤本透子)

◆編者略歴

長谷千代子(ながたに ちよこ)
 一九七〇年生まれ。専攻は宗教研究、文化人類学。九州大学大学院比較社会文化研究院准教授。主な著書に『文化の政治と生活の詩学——中国雲南省徳宏タイ族の日常の実践』(風響社、二〇〇七年)がある。

別所裕介(べつしよ ゆうすけ)
 一九七二年生まれ。専攻はチベット仏教と現代社会。駒澤大学准教授。主な論文に『山』という媒介装置——チベット仏教のコスモロジーと聖山信仰』(『宗教史学論叢』二二)、『リトン、二〇一九年』がある。

川口幸大(かわぐち ゆきひろ)
 一九七五年生まれ。専門は文化人類学。東北大学大学院文学研究科准教授。主な著書に『中国の国内移動——内なる他者との邂逅』(共編著、京都大学学術出版会、二〇二〇年)、『ようこそ文化人類学へ——異文化をフィールドワークする君たちに』(昭和堂、二〇一七年)がある。

藤本透子(ふじもと とうご)
 一九七五年生まれ。専攻は文化人類学。国立民族学博物館人類学明誌研究部准教授。主な著書に『よみがえる死者儀礼——現代カザフのイスラーム復興』(風響社、二〇一一年)がある。

注文書	
(書店印)	
ご担当	様冊
長谷千代子・別所裕介・川口幸大・藤本透子編	
法藏館 定価四、四〇〇円	
宗教性の人類学	
近代の果てに、人は何を願うのか	
ISBN: 978-4-8318-5718-7 C3039	
お名前	住所
お電話	

ご注文はFAX: 075-371-0458

法藏館

〒600-8153 京都市下京区正面通烏丸東入
 TEL 075-343-0458 FAX 075-371-0458
<http://www.hozokan.co.jp> info@hozokan.co.jp

社会科学・民俗